

2019年 高崎市染料植物園企画展

# 光を秘めた 不思議な色

～千年を越えて伝わる色彩～

令和元年 10月11日(金)～12月1日(日)

会場 高崎市染料植物園 染色工芸館 Takasaki City Dye Plant Botanical Garden

開館時間：午前9時～午後4時30分(最終入館は午後4時)

会期中の休館日：10月15日(火)・21日(月)・23日(水)、11月5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)

入館料：一般200円(160円)、大高生150円(120円) ※()内は20名以上の団体割引料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方および付き添いの方1名、65歳以上、中学生以下は無料

※10月28日(月)は群馬県民の日につき開館し、入館料は無料

主催：高崎市染料植物園 〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町2302-11 / TEL:027-328-6808

URL：<https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2017082200011/>

後援：朝日新聞社前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、J:COM群馬、FM GUNMA、ラジオ高崎



# 光を秘めた 不思議な色

～千年を越えて伝わる色彩～

## 〈実演会〉「十二単のお服上げ(着付け)」

日時/10月27日(日) 13:30～14:30  
 講師/辻 延子(衣紋道高倉流群馬道場 会頭)  
 内容/「汗衫(かざみ)」と「十二単」の着付けを実演していただきます。  
 定員/30人(申込先着順) 参加費/無料(入館料がかかります)  
 参加方法/申込方法① 9月28日(土) 9:30から電話

### ★「汗衫」と「十二単」のモデル募集

当日「汗衫」と「十二単」を着てくださる方を各1名募集します。  
 (下記にあてはまりましたら承してください)

●無償で協力してくださる方●汗衫モデルは、身長155cm前後の女子中学・高校生●十二単モデルは、身長160cm前後の女性で、かつらや約12kgの装束を長時間着て立てられる体力のある方●当日は12:30～15:00頃までかかります。●着付けの際に写真を撮影し、ホームページ等に掲載します。  
 ご希望の方は下記「申込方法②」で「汗衫(または十二単)モデル希望」と明記してください(10月11日必着)。



汗衫(かざみ)



十二単

## 〈お話と実演〉黄櫨染ってなに？

### 天皇だけに許された絶対禁色の秘密

日時/11月4日(月・祝) 13:00～15:00  
 講師/青木正明(天然色工房 tezomeya 主宰)  
 内容/ハゼとスオウを重ね染めする「黄櫨染」の染色の実演と解説です。  
 定員/40人(申込先着順) 参加費/無料(入館料がかかります)  
 参加方法/申込方法① 10月5日(土) 9:30から電話

## 〈講習会〉黄丹を染める

日時/11月17日(日) 10:00～15:00  
 講師/山崎和樹(草木工房主宰)  
 内容/クチナシとベニバナを染め重ね、絹の袱紗(45×45センチ)を「黄丹」という色に染めます。対象/定員: 高校生以上・18人(抽選)  
 参加費/8,500円 参加方法/申込方法② (10月29日必着)

## 申 | 込 | 方 | 法

- ① 「十二単お服上げ」「黄櫨染ってなに？」  
 電話でお申込ください(染料植物園 027-328-6808)  
 申込開始日9:30より先着順の受付となります。
- ② 「汗衫モデル」「十二単モデル」「黄丹を染める」  
 下記のいずれかの方法でお申込みください。  
 1) 往復はがき「イベント名・住所・氏名・電話番号」を明記。  
 2) FAX(027-328-6818)「イベント名・住所・氏名・電話番号」を明記。  
 3) 電子メール(senryou@city.takasaki.gunma.jp)  
 件名に「イベント名と開催日」を明記し、本文に「住所・氏名・電話番号」を明記。※添付ファイルのあるものは受付不可  
 ※1通につき1人の申込みとしてください。  
 ※応募多数の場合は抽選となります。  
 ※FAXと電子メールの場合、発信元に抽選結果を返信します。

平成から令和へと元号が改まった今年、天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う宮中儀式が行なわれた際に、「黄櫨染御袍(こうろぜんのごぼう)」という天皇陛下が着用された装束の色にも注目が集まりました。  
 この「黄櫨(こうろ)」や「黄丹(おうに)」「(皇太子のみが着用する色)は、太陽の色や光をあらわしていると言われ、平安時代に編纂された『延喜式(えんぎしき)』(905-927年編纂)という法令集のなかに、「黄櫨はハゼとスオウを染料に用いて染めることが、黄丹はベニバナとクチナシで染めることが書かれています。  
 実は、ハゼやベニバナといった染料には紫外線の下で光る(蛍光を発する)性質があります。つまり黄櫨や黄丹は「光を秘めた色」なのです。  
 『延喜式』には、「黄櫨や黄丹をはじめ様々な色相を染め分けるための、染料となる植物や灰などの

媒染剤の分量が記されており、古代の染色を知る拠りどころとなっています。  
 当園では、この「延喜式」の記述に基いて染色家の山崎青樹氏が草木染で38色を再現した反物を所蔵しています。千年以上の時を経た現在も宮中儀式の装束に受け継がれている黄櫨や黄丹、そして植物が生み出してきた日本の豊かな色彩を、延喜式再現品を中心に紹介します。また、宮中女性の装束として受け継がれている「十二単(じゅうにひとえ)」と、その一部の「五衣(いつつぎぬ)」の配色で季節感を表現する「襲の色目(かさねのいろめ)」を紹介いたします。



ブラックライトを当てたヤマハゼの心材

## 交通案内

- JR高崎駅下車。市内循環バス「ぐるりん」観音山線で約30分
- 高崎駅から5.1km、タクシーで約15分。
- 高速道路のご利用は関越自動車道「前橋」、「高崎」、上信越自動車道「藤岡」、「吉井」の各インターチェンジより約30～40分
- 染料植物園駐車場(170台)のほか、染色工芸館前に3台分のおもいやり駐車場がございます。

## 「ぐるりん」観音山線 時刻表 (高崎駅西口8番のりば)

●系統番号13 農二・染料植物園コース						●系統番号14 片岡・観音山コース							
高崎駅西口	9:00	10:20	11:40	13:25	14:50	16:10	高崎駅西口	9:10	10:30	11:50	13:35	15:00	16:20
染料植物園入口	9:19	10:39	11:59	13:44	15:09	16:29	染料植物園入口	9:42	11:02	12:22	14:07	15:32	16:52
高崎駅西口	9:59	11:19	12:39	14:24	15:49	17:09	高崎駅西口	10:09	11:29	12:49	14:34	15:59	17:19

